

念願のアメリカ留学

情報文化学科 2年 田代 優衣

・はじめに

私が留学したいと思い始めたのは、高校3年生の時でした。その時の私は、英語が好きで、海外に興味があつて、話せるようになりたい、行ってみたいという、そんな漠然とした夢を持っていました。今思うと、この国際情報大学に入り、4か月間もアメリカで勉強できたなんて、恵まれているし、夢のようです。この経験を役立てたいし、恐らく10年後も20年後もその先も、私はいろいろな人にアメリカでの出来事を話すのだと思います。大学1年生の時は留学が楽しみで楽しみで仕方ありませんでした。早く留学したい、アメリカに行きたいという気持ちでいっぱいでした。しかし、アメリカに行く約1ヶ月前は寂しくて寂しくて泣いてばかりだったことを今思い出しています。ですが留学中の4か月を振り返ると、こんなに見るものすべてにときめく毎日は今までなかったし、英語漬けで勉強している中でもしっかり遊ぶという最高の日々を送り、とっても充実していました。

・留学前

がっつり勉強は特にせず、必修の英語の授業に必ず出席し、出てきた単語や文法を確認する、テスト勉強や宿題をしっかりとやるという感じでした。授業以外では映画を見るときは字幕で見たり、歌詞を見ながら洋楽を聴いたりと英語から離れないようにすることが大事だと思います。留学の準備をする段階で、戸惑うことが多々ありました。医者にサインを貰いに行ったり、ビザ申請の写真の読み込みができなかったり、sevisの申請や米国大使館に行くための費用が嵩んだり、自分が知らないことや面倒なことがたくさんあり、「こんな状態でアメリカ行くななんて不安」と何度も思いました。この準備の時からすでに留学が始まっているのだという自覚をしっかりと持ち、自分で進めていく必要があるのだと感じます。

・アメリカへ

バタバタの留学前の準備を終え、ついにアメリカへ行きました。14時間の時差は、睡眠を大事にしている私にとってはきついものでした。人によって違いますが私は1週間くらいで生活リズムに慣れてきました。初めの1ヶ月半はホームシックのような、辛く不安な気持ちがなかなか抜けず、朝起きると「自分の部屋じゃない」と、毎日落胆していました。部屋に閉じこもって、日本にいた時の写真を見返したり、友達とLINEしたり、ずーっと音楽を聴いたりしていた日もありました。さらに、英語が聞き取れなくて、話せなくて、「耳と口があるのに何もできない」と悲しくなりました。生活していて

だんだん分かってきたことは、ゆっくり話す人、早く話す人、訛りのある人、どこの国の人かによってよく聞き取れたり、聞き取れなかったりする事です。アメリカの大学には様々な国の人でしたが、国によってあるいはその人によって発音には癖があり、また文法が多少あってなくても対話していれば言いたいことが伝わるということも分かり、もしかしたら英語に正解はないのかもしれないと思いました。相手にどうやったら伝わるか、どの単語なら伝わるか考えながら話すことが大事だと思いました。



・ Conversation Partner and Class

私のカンパセーションパートナーは3年生の **Lauren** (ローレン) でした。彼女の夢は先生になることで、かっこよさと美しさを持ったとても優しい人でした。私の拙い英語をいつも理解してくれて、話すのが苦手な私でも少し自信を持つことができたし、日本について知らないことがたくさんあることに気づくことが多々ありました。授業が始まるとき、私はリスニング力が特に乏しいので、ついていけるのか最初は不安でした。同じクラスのブラジル、サウジアラビア、中国の人はみんな英語が話せるという環境で、ビクビクしていたけど、とにかく先生やクラスメイトが優しくて気さくで、徐々に慣れていくことができました。先生の授業も、テキストも、話し合いもすべて英語という状況は、日本ではできなかったことなので新鮮だったし、難しかったけどとても身になっている感じがしました。課題の中で難しかったのが、**Article report** という名の、新聞記事の一部を読んで要約し英語でレポートを作成するものでした。日本語でも苦手なことを英語でやるのは時間がかかり、新聞だと分からない単語、専門用語などがたくさん出てきて悪戦苦闘していました。そこで自分のいい加減な部分や頭の回転の悪さを改めて思い知りましたが、今では大事な要約する能力を英語で鍛えたことはすごく力になっているし、達成感があります。**Mrs. Hardee** と **Mrs. K** はプロで、言いたいことを瞬時にくみ取ってくださり、ダメなところは指摘し、いいものはしっかり褒めてくださりました。帰る日が近づくにつれて私はどんどん2人が大好きになっていきました。本当に温かくて、生徒のことを愛していて、素晴らしい方々でした。将来こんなに楽しんでや

れる仕事につけたら幸せだろうなと、お二人を見ていると感ずますし、思い出すたびに会いたくなってきました。



・ Roommate

私のルームメイトはネパール出身の **Shila** でした。ちょうど私の姉と同じ年で、生活していくにつれて安心感が生まれてきました。経済について学んでいて、非常に勉強熱心で、ネパールの中ではお姉さんの存在の人でした。初めの方に、私が今は上手に英語を話すことができないから4か月英語をここで学ぶということを伝えたとき、彼女は「4か月後、きっと上手になっていると思う。がんばってね!」と伝えてくれました。また私が風邪を引いたとき、薬を飲んだか聞いてくれたり、治った後に「また何かあったら言ってね。」と声をかけてくれたりして、とっても嬉しかったです。ミズーリに初めて雪が降ったときは、「ユイ、雪!!」と部屋の窓を開けて大喜びしていました。雪を見たことあるか聞かれたので、私の住んでいる新潟は毎年雪が多いと伝えたら「ネパールは雪が降らないから、これが人生で初!」とっていてとってもかわいらしかったのを今でもはっきり覚えています。ネパールのお祝い事がある日には、おでこにティカという赤い印をつけてくれたり、他にもネパールの文化をたくさん教えてくれたりしました。アメリカの最終日には、手紙と仏陀の置物をプレゼントしてくれました。本当に心の優しい人で、縁があって同じ419号室のお部屋に住めてよかったです。



・ Event

Field Trip で動物園や farm、美術館にショッピングモールといろいろな場所へ行きました。建物が大きくて、圧倒されることがしばしばあったし、クラスメイトとさらに仲良くなったり、みんなで写真を撮り合ったり、多くの英単語にも出会いながら、アメリカの文化を学ぶ本当に良い機会でした。10月に二十歳の誕生日を迎えたときは、サプライズでみんながケーキやメッセージカードを用意してくれて、とっても感動しました。一生に一度の二十歳の誕生日をここで迎えられること、いい仲間に恵まれたことに感謝しているし、幸せでした。Halloween では、downtown へ行って、仮装した子どもたちをたくさん見てきました。MARVEL や Disney の仮装が多く、本当にかわいらしく、メリービルの平和さやアメリカのイベントの楽しさを感じました。いろいろな場面で、アメリカの人々の何でも楽しもうとする姿勢はいいところだと感じるし、うまく表せないけど畏れ多いところ大好きです。英語にはあまり敬語がないこと、上下関係が厳しくないことが、これには関係しているのかなと思います。11月には We the kings というバンドのライブを見て、またここでも感動しました。コンサートに行くのが好きな私ですが、英語で話して歌うアーティストは初めてでした。会場のお客さんの雰囲気は日本と違う点がいくつかあって興味深く、このライブで聞いたお気に入りの歌は今でも聞いています。



・ Host family

私が楽しみにしていたアメリカのビックイベント、Thanksgiving day が 11 月後半にありました。ホストファミリーのご夫婦 Mr. and Mrs. Horner は、様々な国の文化をご存知で、上品で心優しい、本当に素敵な方たちでした。5 日間もご飯を一緒に食べたり、お出かけをしたりして、家族のように近くにいるとやはり、英語を聞いて話すのにより慣れて、上達していく感じがしました。それを感じて、英語圏にもし長い間住んだらもっともっと上達していくのだろうなと思い、日本に帰りたくないときえ思いました。そしてこの留学で、特に 5 日間で私の中で変わったのが、キリスト教に対する考え方です。ご夫婦は、必ず食事の前に唱え、毎週教会に行きます。食べる前に唱えるのは何となく知識として知っていましたが、間近で見るとはもちろん初めてでした。キリスト教は日本ではなじみがなくて、私自身も少し抵抗があったのですが、今は全くありません。

アメリカの小さな教会では、来た人がみんな家族という意識をもって、まず挨拶と握手、会話を交わします。そして歌を歌うときは、ドラムやギターを使って演奏され、みんなで歌います。大きな教会は、美術館のように綺麗な壁や天井があり、とても広くて感動したし、**Monks** の合唱を聴くことができ、嬉しかったです。とても温かく、あこがれのご夫婦なので、卒業パーティーの別れ際は泣きしてしまっただけで、今ではとてもいい思い出です。



・最後に

泣いたり笑ったり怒ったり恐れたり悩んだりいろいろなことがあって、それをアメリカで経験できたことは、私の人生で本当に貴重なことです。やはり、他国の友達が英語を当り前のようにぺらぺら話していると、日本の英語教育の遅れを痛感しますが、この4か月でたくさんの人たちと英語を通してかかわってこられたのだと思うと、自信を持つべきだと感じるし、これからも勉強していきたく感じます。今思うと夢のようですが、夢ではなく現実だから、留学して勉強したのだといういい意味でのプライドを持ってこれから生活していきたいです。帰国する少し前はもう一生会えないかもしれないという恐怖があったけど、今はまた会えるかも、という気持ちでいるし、もし会えなくても同じ言語で同じ時間を共にしたことが私を支えてくれているし、SNSでのつながりもあり、どこかで生きているのだと感じられてとても嬉しいです。アメリカで学んだ様々な国の文化や考え方は、私に広い視野で物事を見ることの大切さも教えてくれました。すべて周りの方々のおかげです。私の高校の時から夢だった留学を受け入れて、応援してくれた家族や待っていてくれた友達や先生、準備にかかわってくださった学務課の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、アメリカで出会った **Mrs. Hardee**、**Mrs. K**、**Mr. and Mrs. Horner**、クラスメイトや友達にも、本当に感謝しているし、4か月という長い目で見るととても短い期間に関われたことを心から好運に思います。ありがとうございました。またアメリカへ行きたいです!